

改元で、東京オリンピックで、 日本はどう変わる？高知はどう変わる？



＜プロフィール＞

東京大学大学院人文社会系研究科・文学部・兼任講師、
 東京大学農学部・兼任講師、
 立教大学大学院21世紀社会デザイン研究科教授、
 三重大学生物資源学部・兼任講師などを歴任。
 NPO法人・森づくりフォーラム代表理事など。
 群馬県では「第16回国民文化祭・ぐんま2001」総合プロデューサー、「一郷一学塾」塾頭などをつとめる。
 1950年、東京世田谷区生まれ。父は映画プロデューサー。
 子どもの頃から魚釣りをしていた。
 1968年東京都立新宿高校卒。大学には進学せず。
 1968年より妻・竹内静子（労働社会学・毎日新聞記者）と暮らす。
 1972年より執筆活動。その頃から群馬県の山村・上野村に長期滞在するようになり、やがて東京との間を往復する半村民になる。現在は、村では5畝（150坪）の畑と1ヘクタールの森のある古い農家で暮らす。

講師：哲学者

うちやま たかし
内山 節 氏

■日時 2018（平成30）年3月1日（木）18時～20時

■会場 高知県人権啓発センター ホール

〒780-0870 高知市本町4丁目1-37 TEL：088-821-4681

■主催（お申込み） 公益社団法人高知県自治研究センター（高知市鷹匠町2-5-47）

<http://www.kochi-jichiken.jp/> 電話&FAX088-822-6460

※入場無料です。

事前申し込みしていただいた方には、前回の内山節さんセミナーの講演録を差し上げます。

お申込みは裏面をFAXもしくはメールでお願いします。

- 国家と国民に共通課題があるように感じる時代は終わりかけてはいないか
- 「昭和」が失脚していく時代・・・戦後的昭和の価値観が価値を失っていく、戦後的昭和の価値観とは何か
- 戦後的昭和の空気が嫌われていく時代、昭和的だと感じさせる政治勢力の衰退、政権への消極的支持率は高くても、政治家個人は嫌われていく
- 昭和に戻りたい人々、戻りたくない人々、強い経済とそれを促進する強い国家を求める人々は存在する
- 改元、オリンピックは脱昭和を感じさせるか、昭和に戻りたい人たちのイベント
- 脱昭和から生みだされていくもの、経済成長が目標ではなくなる、個人から共同性、ネットワークへ
- 自由、平等、友愛、民主主義といった近代の理念は、強大な国家の制度に組み込まれることによって、民衆の自由や民主主義を圧殺する要素になった
- 大きな課題をかかえた時代、私たちはこの時代を引き受けることができるか、それとも壊れゆく時代にしがみついていくのか

（予定される講演要旨）

F A X 088-822-6460
メール info@kochi-jichiken.jp
切 2018年2月28日(水)

【参加申込書】

(公社) 高知県自治研究センター 内山節セミナー

“改元で、東京オリンピックで、日本はどう変わる？高知はどう変わる？”

(2018.3.1)

団体名 (所属) _____

住 所 _____

【参加者名】

お申込み・お問い合わせ 公益社団法人 高知県自治研究センター 〒780-0862 高知市鷹匠町 2-5-47 TEL 088-822-6460 FAX 088-822-6460 メールアドレス info@kochi-jichiken.jp
